

主体的に 学びに向かう姿を 育てる授業づくり

～教師による子どもの
「見取り」に焦点を当てて～
(2年次／2年計画)

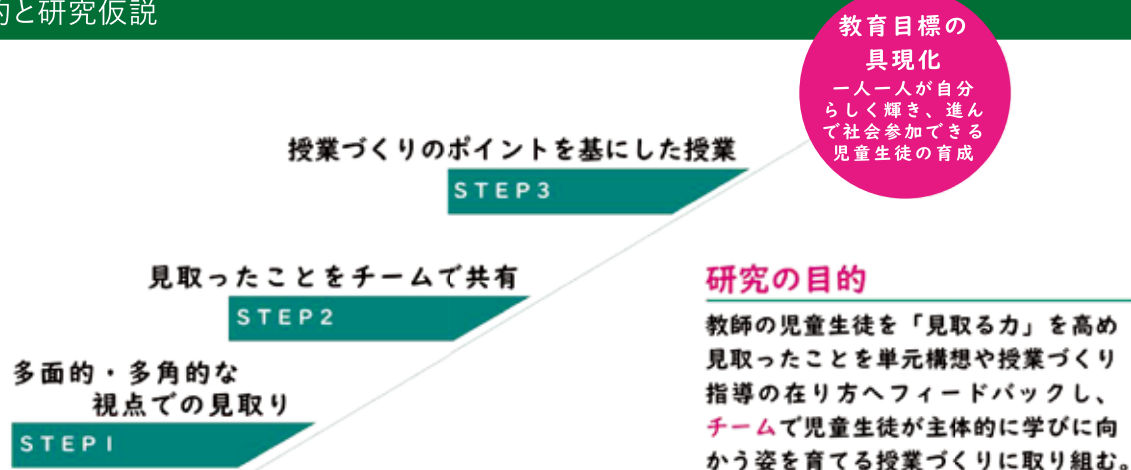


秋田県立支援学校
天王みどり学園

研究主題設定の理由

これまでの取組から	目指す児童生徒の姿	社会的要請から
○単元構想シートを活用した授業づくり ○子どもを見取る話合い ▲長期的な視点による単元構想 ▲見取りの視点や見取りの共有方法の工夫	・「自分で」、「自分から」行動する姿 ・「自分の言葉で話す」、「自分から意思表示する」姿	・Society5.0時代の到来 ・先行き不透明な予測困難な時代 ・教師の役割は「指導者」から主体的な学びを支援する「伴走者」へ
見取りの重要性 「見取る力」の向上	主体的に学びに向かう姿	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

研究の目的と研究仮説

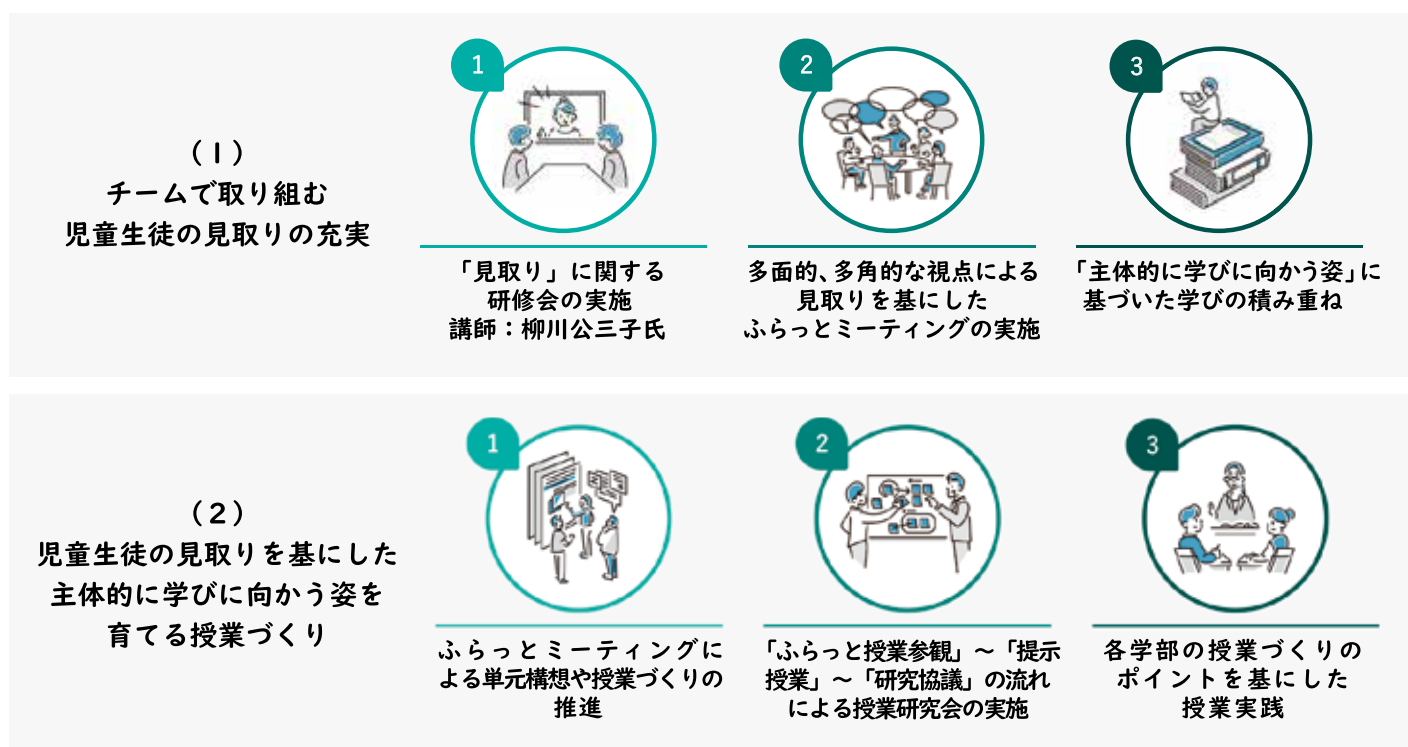


研究1年次の取組から

成果
○自立活動実態シートの活用による実態把握 ○児童生徒一人一人の「主体的に学びに向かう姿」の設定 ○授業研究会の流れの確立 ○各学部の「授業づくりのポイント」

課題
▲授業の評価や学習評価の視点の難しさ ▲複数の目での実態把握と単元構想の不十分さ ▲「見取り」の共通理解と場の工夫

研究2年次の研究内容と方法



研究の実際

「見取り」に関する職員研修会の実施 講師：柳川公三子氏

テーマ「今、求められる授業研究の在り方」



ねらいに絞った話し合い

「次につながるキーワード」の
焦点化

- 「事実」と「解釈」を分けて見取る意義の共通理解
- 互いに尊重し、傾聴し合う姿勢が大切

見取りのイメージ



教師目線の見取り

行動観察などにより実態を捉える
育成を目指す資質・能力とその評価

子どもの立場に立った見取り

児童生徒の事実（つぶやき、動き、視線、
関わりなど）とその背景や感情などを探る

ふらっとミーティングの実施

多面的・多角的な視点から児童
生徒の姿を見取り、**チーム**で共
有しながら単元（題材）構想や
授業づくりに取り組む。



学びの積み重ね

	主体的に学びに向かう姿
①	学ぶこと（見ること、聞くこと、話すことなど）に前のめりになっている様子
②	自分を理解し、得意なことを生かして活動したり、苦手なことにも挑戦したりする様子
③	自分の役割ややるべきことが分かって取り組んでいる様子
④	最後まで諦めず、試行錯誤しながら活動に取り組んでいる様子
⑤	学習の良かった点や改善点を次の時間に試したり、他の学習場面や生活の中で生かそうとしていたりしている様子
⑥	他者と関わったりアドバイスを受け入れたりして、やってみようとする様子

全体で設定した「主体的に学びに向かう姿」を参考に、
単元（題材）における一人一人の「主体的に学びに向
かう姿」を設定。単元（題材）終了後、評価。児童生
徒の変容を教師間で共有して学びを積み重ねていった。

ふらっとミーティングによる授業づくり

月日	ミーティング	形態	内容
4月中	ふらっと ミーティング1	学級	主に学級での児童生徒の実態把握と教師間 での共有
5月1日	ふらっと ミーティング2	学部	・単元構想シートを活用した単元構想や授業 づくりのミーティング ・「主体的に学びに向かう姿」の検討・設定
7月25日他 夏季休業中	ふらっと ミーティング3	学部	・単元構想シート ・「主体的に学びに向かう姿」 中間評価・改善
1月17日	ふらっと ミーティング4	学部	・単元構想シート ・「主体的に学びに向かう姿」 評価・引継ぎ

ふらっとミーティングと連動する形で、ミニ教育
課程検討委員会を実施。3学部の職員が入り
混じり、研究対象授業の単元や授業などについ
て、情報交換・意見交換した。

ミニ教育課程
検討委員会

授業づくりのポイント

小学部

好きなこと、得意
なこと、分ること
の実態把握
友達とつながるた
めの場面設定や手
立て

中学部

繰り返しかつ発展
性のある単元構成
の工夫
他者との関わり
自分の思いや考え
を表出するための
手立て

高等部

「卒業後」に焦点
を当てた目標設定
他の学習への般化

授業実践は
各学部の
ページに記載

授業研究会の実施

STEP1 ふらっとミーティング

授業者のみならず、チームで児童生徒の姿を
共有する。チームで共有した児童生徒の姿から、
単元構想や授業づくり、年間指導計画等の作成・
実行・評価・改善を行い、主体的に学びに向かう
姿を育てる授業づくりに取り組む。



STEP2 ふらっと授業参観



参観者は事前に授業を参観し、抽出
児童生徒の学習の様子や授業の様子
を知る機会を設定

STEP3 提示授業



〇〇なのは△△だから
かもしれない
〇〇なのは□□だから
かもしれない

参観者は抽出児童生徒の学びの姿を見取り、**青色の付箋紙**に気になった児童生徒の言動（事実）
を記入。**ピンクの付箋紙**に「なぜそうしたのか」を推察し、自身の解釈を記入する

STEP4 研究協議（小グループでのワークショップ）



付箋紙を用いながら見取った抽出児童
生徒の姿を伝え合い、対話を通して
「次につながるキーワード」を導き出す

STEP5 授業へのフィードバック



授業者は「次につながるキーワード」
から、授業改善、児童生徒への支援
などにフィードバックする

成果と課題

(1) チームで取り組む児童生徒の見取りの充実

- 多面的、多角的な視点による見取りの充実と教師の見
取る力の向上
- 単元構想や授業づくりにチームで取り組む土台の形成

(2) 主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

- 協議の視点の焦点化と次につながるキーワードの具体
化による個に応じた指導の充実と一貫性のある授業づ
くりの促進
- 児童生徒の成長や変容、「主体的に学びに向かう姿」
が随所に見られた

今後に向けて

- ・本校の強みとなる「見取り」の進化・深化
- ・チームで取り組む授業づくり体制のさらなる発展
- ・本研究の成果と課題の応用・般化（つなぐ）

研究1年次（昨年度）の取組から

今後に向けて
○主体的に学びに向かう姿を引き出すための手立ての評価・改善を図る

授業づくりのポイント

- ・児童の好きなこと、得意なこと、分かることの実態把握
- ・友達とつながるための場面設定や手立て



チームで取り組む児童生徒の見取りの充実

小学部全職員で複数回ふらっとミーティングを実施

5月	現段階での単元計画	7月	単元の進捗状況、児童の変容の共有	9月	抽出児童の実際見取りの方向性	9月	食材を選ぶ観点、提示の工夫
調理を継続していくメニューは、カレーと鍋、どちらがよいだろうか？	ピザを生地から作る？餃子の皮で代用してはどうか	気持ちを言葉で表すことが難しい児童もいる。活動の設定と発表場面での関わり	食べ比べて一方の食材を選ぶ観点について「素材の味」～好みもあるか。また食べたい、食べてもらいたい「味」「食感」「香り」				

主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

4年生 生活単元学習「できるんジャー！やるんジャー！③～宿泊学習でピザをつくろう～」

ピザの試作・試食を中心に意見交換、タブレット端末を活用した調べ学習・アンケートの作成、発信



自分の考えを整理して友達に伝えるようになってほしい



教師の見取りと解釈 授業研究会より抜粋

考えの表出を次のステップにつなげるために

2枚のピザを食べ比べ、「きゅうりもおいしかったけど…」と言いながらこんなにやくピザを選んだ	自分の発表が終わったあと、にんまりして席に戻った
生の状態と比べてこんなにやくのにおいの変化の印象が強かったから選んだのではないか	話した内容を大事な意見として認められたという思いがあるのではないか

【次につながるキーワード】

言葉の力～経験と結びついた力～

授業改善



試食の際、児童が話したことを教師が付箋紙に書いて「つぶやきメモ」を作成し、考えを整理したり、発表したりするときに活用した。

公開研 生活単元学習「できるんジャー！やるんジャー！⑤
～クリスマスパーティでピザを振る舞おう～」

話す内容を整理し、優先順位をつけて話すことができるようになってほしい



【次につながるキーワード】

自分の思いを相手に伝える言葉にする
これまでに出了キーワードを活用・文章化

児童のねらいに応じて「考える→発表する」の過程を工夫する

- ▶抽出児童の変容
発表場面では、話合いで友達が話した言葉を使って発表したり、「〇〇さんは上手にできたが、僕には難しかった」など、友達の様子を踏まえて発表したりした。

まとめ

○成果

学部職員全員で抽出児童の「見取り」による授業構想を複数回行い、多面的、多角的な視点で「主体的に学びに向かう姿」を導く手立てを探った。

○今後に向けて

- ・児童の「分かる」を絶えず見直し、広げる見取り
- ・児童があと少しで届きそうな課題設定ややり遂げた手応えの視点による授業づくり

研究1年次（昨年度）の取組から

今後に向けて
○生徒同士をつなぐ支援～ペアでの活動、教師の仲介がポイント～
→「主体的に学びに向かう姿」を育むためのキーワード「他者との関わり」
※全体で設定した⑥「他者と関わったりアドバイスを受け入れたりしてやってみようとする」との関連が深い

チームで取り組む児童生徒の見取りの充実

ふらっとミーティングで全学年の生活単元学習について**中学部全職員で検討**



5月 生徒の実態把握
生徒の目指す姿の共有
単元構想アイデア



7月 単元の進捗状況
学びに向かう姿の検討・設定
授業づくりアイデア



8月 抽出生徒のエピソードの共有
学習指導案の検討

授業づくりのポイント（1年次から再検討）

- ・繰り返しかつ発展性のある単元構成の工夫
- ・他者との関わり
- ・自分の思いや考えを表出するための工夫

主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

1年生 生活単元学習「湯上ツアーズ～追分の魅力を伝えよう～」

「おいしそう」「行ってみたい」と思うようなグルメマップの制作



取材準備



取材



編集

教師の見取りと解釈 授業研究会より抜粋

試食したあと、「後味」の項目にすぐに「なし」と書く	団子を食べたことがある人は？の問いに、拳手をし「わらびもち」と答える	黙って鉛筆を触っている
飲み込んだ後、本当に味がしなかったのでは？	知っていること、経験していることは自信をもって答えられるのでは？	ぼーっとしているようで実は考えていた？
経験不足で自分の感覚に言葉が当てられない？	そもそも食感を表す語彙を習得していない？	鉛筆が気になる。とりあえず決めておくか…という感情？

【次につながるキーワード】

主体的なやり取りを引き出す場
安心できるペアの継続
操作しながら相談する手立て

授業改善



「Keynote」アプリを使用した複数の生徒が同時に編集する活動の設定

- ▶抽出生徒の変容
・「取材」での体験を思い出したタブレット端末を使用して文章化する姿が見られた。
- ・編集グループの生徒に「僕は〇〇と思う」など自分から意見を伝える姿が見られた。

まとめ

○成果

- ・全学年の生活単元学習について構想段階から全職員で検討し、学級の特徴や学びの方向性を共有した上で「見取り」を行うことができた。
- ・「主体的に学びに向かう姿」が似た生徒を抽出し「次につながるキーワード」を応用し継続的な授業改善を行うことができた。

○今後に向けて

- ・ふらっとミーティングの継続した実施に向けた計画の作成
- ・生活単元学習以外の授業における「見取り」からの授業づくり

研究1年次（昨年度）の取組から

今後に向けて
▲生徒の理解を支える支援
→課題を自分事として捉えられる目標設定
▲卒業後を意識した支援方法の共有、指導内容の絞り込み
→より細やかな「見取り」の共有



授業づくりのポイント

- ・卒業後に焦点を当てた目標設定（外部評価の活用）
- ・他の学習への般化（様々な学習担当が目標を共通理解しアプローチ）

チームで取り組む児童生徒の見取りの充実

学年や学級が入り混じったグループでのふらっとミーティングで見取りの共有



5月 外部評価の活用方法を検討
・現場実習評価表、校内実習の評価のファイリングと学部回覧
・巡回記録の様式変更（観点の統一）

7月 授業の構想や進捗状況を共有
題材における主体的に学びに向かう姿の検討
役割分担やグルーピングの検討

主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

木工班 作業学習「道の駅てんのうでの販売に向けて」
～秋田杉の箸とデザイン箸の製作～

作業学習製品販売会に向けて箸60膳の製作



箸のかんな掛けを担当



公開研究会事前授業研究会より
【次につながるキーワード】

見え方への配慮
言語化

授業改善（公開研究会）



- ・かんな掛けの治具の工夫と作業台の高さの調整
- ・「力の入れ方」「角度」「かんなの持ち方」の三観点の提示

教師の見取りと解釈 授業研究会より抜粋

協報告場面でやりとりしていることが、振り返りでの発表につながらないのはなぜか

振り返りの場面で言えない、書けない	自信がない？	目標と自己評価を合わせて考えるのが難しい？
何について言えばいいのかわからない？	どう伝えたらいいかわからない？	考えずに答えている？
言語化が難しい？	うまくいったとき、「まぐれです」と発言	

【次につながるキーワード】

振り返りにつながる報告場面の視覚化

対話を通した自己決定場面の設定

- ▶抽出生徒の変容
作業中のやりとりをキーワード化して教師が付箋紙に残す。付箋紙を参考に日誌を記入することで、以前より短時間で日誌を記入。本人から「これ（付箋紙）があると書きやすい」現在では他の学習（生活単元学習など）でも活用

まとめ

○成果

- ・外部評価の活用による目標の明確化と各教科における共通したアプローチ
- ・「振り返り場面での言語化」、「自立活動の視点」が有効な視点

○今後に向けて

- ・思考が深まるような手立ての工夫。本人の意思を尊重した自己決定
- ・「夢や願い」の実現に向けた自己理解を深めるキャリアノートの活用



Green
Great
Global

〒010-0101 秋田県潟上市天王字追分西27番地の18

TEL : 018-870-4611

FAX : 018-870-4612

Email : midori-s@akita-pref.ed.jp